

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 30 年 6 月 21 日現在

機関番号：15401

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2015～2017

課題番号：15H03503

研究課題名(和文) 中等国語科における批判的読解力の診断評価システムの拡張と活用による授業改善

研究課題名(英文) The Improvement of Japanese Classes in Secondary School through Diagnostic Assessment Systems of Critical Reading

研究代表者

間瀬 茂夫 (Mase, Shigeo)

広島大学・教育学研究科・教授

研究者番号：90274274

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 10,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、中学校および高等学校段階の国語科において文章を推論的に理解するとともに、批判的に分析し、自分の立場から解釈や評価を表現する能力について、現代文と古典の領域に加えメディア・リテラシーの領域を含め「批判的読解力」と再定義した。そして、そうした批判的読解力を評価する調査問題と評価指標からなる診断評価システムを拡張的に開発するとともに、教師自身がそれらを活用して日常の国語科授業の改善に取り組む実践的な研究を推進することで、その有効性を検証した。さらに、それを大学における国語科の教員養成カリキュラムおよび現職教員研修に応用した。

研究成果の概要(英文)：We define the readers who comprehend text critically and reasoningly as productive readers. Today it is important to foster the productive readers in junior high school and high school. 1) First, we reconstructed the model of productive reading to add media literacy to. 2) We developed the system to assess the performance of productive readers in four genre, which are novels, expository texts, Japanese classics, and media literacy. 3) We made set of paper tests and rubric to exam productive reading through the research for the students. 4) In the classes of Japanese teachers training program, we made the them to assess the response of high school students for texts with the rubric. Or in seminar for Japanese teacher, we afforded them to use our assessment system to improve their Japanese classes.

研究分野：教科教育学(国語科教育)

キーワード：中等国語科 批判的読解力 評価 高次読解力 メディアリテラシー 批判的思考 授業改善

1. 研究開始当初の背景

(1)第I期の研究の経緯と成果

学力調査は、読み手像を具体的な評価基準とともに可視化する機能をもっているが、従来の我が国における国語学力調査では、文章に明示的な言語的情報を正確に理解する力を評価の主たる対象としてきた。ところが、2007年度から実施されている文部科学省「全国学力・学習状況調査」の国語の問題では、従来の学力測定に準じたA問題に加えて、B問題として、文章について熟考・評価し、自分の考えを表現する問題が設定されている。これは、OECDによる国際的な学力調査PISAの影響と考えられている。とは言い、高等学校段階においては、従来からの大学入試における国語入試問題の影響が強く、こうした新しい読解力の標準化が行われていない。また、「全国学力・学習状況調査」においても、調査問題は大変工夫されているが、悉皆調査であることが影響して、評価基準については、評価の妥当性よりも信頼性や公平性を重視したものととどまっている。

我々は、平成24年度から平成26年度にかけて本研究助成を受けて行っている共同研究、基盤研究(B)研究課題名「中等国語科における生産的な読み手育成のための読解力・授業力診断評価システムの開発」において、「文章に明示的な言語的情報を理解するばかりでなく、既有的知識や情報と結びつけて推論したり、批評したりしながら読書行為を行う」読み手を「生産的な読み手」と定義し、高等学校段階における国語科の各領域(評論・小説・古文・漢文・言語事項)について、そうした読み手の育成を目的とした読解力診断システムを開発し、それらを用いて高校国語科の授業改善を行う研究(第I期)を行い、次のような研究課題に取り組み、研究成果を得た。

- 1)「生産的な読者」育成のための読解調査問題および評価指標(診断評価システム)の開発
- 2)高校現場における読解力診断評価システムの活用による授業改善
- 3)教員養成カリキュラムにおける読解力診断評価システムの活用

(2)高校教育の現状と読み手像の再定義

昨今高等学校段階における学力評価をめぐる状況は、新しい局面を迎えつつある。一つは、高校卒業時における学力保障の問題、大学入試を含めた学力評価改革の動きである。二つ目に、グローバルな人材の育成が高校段階においても求められているという状況である。三つ目に、PISA2009でメディア・リテラシーが調査の対象となるなど、読解力の概念が拡張しているという状況である。ただ、学力保障が再び問題となっても、従来のような文章内の明示的な情報を正確に処理する能力の測定に終始することに戻るわけにはいかない。メディアを含めたテキストを主体的に理解し、客観的な根拠に基づいて評

価し、自分の判断を論理的に表現しうる、世界標準の読解力を適切に評価しながら、育成することがいよいよ取り組むべき課題となってきた。

2. 本研究の目的

こうした状況をふまえ、本研究では、「メディアを含めたテキストを主体的に理解し、客観的な根拠に基づいて評価し、自分の判断を論理的に表現しうる、世界標準の読解力」を「批判的読解力」として再定義し、そうした読解力を育成するために、第I期で構築した診断評価システムの拡張を行い、システムを活用した授業改善の有効性を検証することを研究の目的とし、次のような研究課題を設定した。

高校生の実態に沿った批判的読解力の読解モデルを再構築し、中位から低位を対象とした学力調査問題および評価指標を開発する。

診断評価システムを活用した実践的な研究を推進し、教師相互で評価指標を修正しながら授業改善を行う。

海外の学力調査をふまえメディア・リテラシー領域の学力診断評価問題を開発するとともに、実態調査をもとに評価指標を作成する。

教員養成カリキュラムおよび現職教員研修への活用を行うとともに、有効性を検証する実証的な研究を行う。

3. 研究の方法

高校段階における批判的読解力を診断評価するシステムを拡張・活用し、国語科授業を改善・開発するため、次の手順で研究を進める。

1)学力像の再定義...第I期における調査問題による学力診断と授業改善の結果を再分析し、従来システムの成果と課題を明らかにする。また、国内および海外におけるメディア領域の学力測定方法を調査し、「批判的読解力」を再定義する。

2)評価問題・指標の再開発...現代文・古典領域については中低位の学力層を対象とした学力評価問題の再開発を、メディア領域については新たな調査問題の開発をそれぞれ行い、調査を通して評価指標を作成する。

3)授業改善...複数の教師、学校において読解力評価および授業改善を行うとともに、その過程を記述し効果を分析する。

4)教員養成カリキュラムおよび現職教員研修への活用...批判的読解力の調査問題と評価指標を大学の授業に取り入れるとともに、現職教員研修において、有効性を検証する。

4. 研究成果

(1)読解モデルの設定と更新

各領域について、次の五つの問いの水準を設定した。

読みの構えを問う...本文を読む前に、読

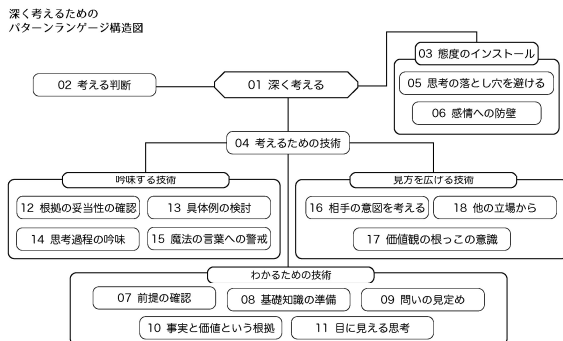
み手の既有知識を用いて推測を行うことでテキストに関わる力を問う。  
 本文を問う...本文に明示的な情報・内容を理解する力を問う。  
 テキスト世界を問う...非明示的な内容を推論・解釈し、テキスト世界を理解する力を問う。  
 書き手と読み手の関係を問う...テキストにおける表現方法・技法やレトリックなどの効果を分析し、評価する力を問う。  
 テキスト世界と現実世界の関係を問う...テキスト世界における問題と読み手が存在する現実における問題とを関連させて考える力を問う。

こうしたテキストを中心とした読解力の枠組みにこれに加え、メディア・リテラシー領域のモデルを表1のように設定するとともに、それらを包括する批判的思考をとらえるための枠組みを図1のように設定した。

【表1】メディアリテラシーの枠組み

	評価の枠組み	問う内容
A	オーディエンス	テキストがどのような読者層に読まれることを意図して作られたものかを推論する力を問う
B	表象	写真とテキストが一体となって、どのようなことがらを表象しているのかを分析する力を問う
C	コンテキスト	テキストが成立する背景を推論し、テキストの理解に援用する力を問う
D	情報公開の公正性	自らが情報の発信者となる場合に、どのようなことがらに気をつけるべきか、情報の扱いにおける倫理的観点からの理解を問う
E	イデオロギー	テキストに内包される価値観を認識し、テキストを評価・判断する力を問う

【図1】批判的思考の枠組み



(2) 評価問題・指標の再開発

1) 高校小説領域

高校段階の小説領域の評価問題として、次のものを開発し、調査を行った。

「愛されすぎた白鳥」(小川洋子)

「信念」(武田泰淳)

このうち「信念」について、以下に問題を示す。  
 問一 これから「愛されすぎた白鳥」(作・小川洋子)という題名の小説を読んでもらいます。この題名から、どのような内容を想像しますか。自由に書いてください。

問二

(一) あなたがこの小説を読んで、疑問に思ったこと、考えてみたいことを、問いの形でいくつでも、箇条書きで書いてください。また、それぞれに対する自分の考え(予想)も、あわせて書いてください。

(二) (一)で挙げた問いのうち、国語の授業の中で学習課題にするとよいと思う問いを二つ選び、行の頭に を付けてください。

問三 この小説を学習するとき、Aさんたちのクラスでは、小グループでそれぞれ問いを立て、それについて話し合っていくことにしました。次に挙げた問いについて、授業で考える価値がある、とあなたが考える順に、番号を付けてください。

ア、「番人」にとっての「幸せ」とは何か、考える。

イ、「番人」にとって、「白鳥」とはどのような存在だったのか、考える。

ウ、「白鳥」にとって、「番人」はどのような存在だったのか、考える。

エ、この小説の「読後感」を交流し、そのような印象を受ける理由を考える。

オ、この小説が、読者にどのようなことを伝えようとしているのか、考える。

カ、まず挿絵が先に描かれ(画家・樋上公実子氏による)それを見たうえで、作者の小川洋子氏が小説を書いたという、この小説の成立背景をふまえて、分析・解釈する。

キ、この作者の別の小説を読み、比較する。

問四 次の問いについて、あなたの考えを書いてください。

あなたは、「番人」にとっての「白鳥」とは、どのようなものだと考えますか。あなたは、「番人」の「白鳥」への行為をどのように評価しますか。

この小説は、どのようなことを暗示しているのだと考えますか。

この小説は、画家の樋上公実子氏が描いた絵が先にあり、それにあわせて、小川洋子氏によって書かれたものです(実際の絵の一部を、左に示しています。ただし、下の「スワンキャンディ

ー」は、樋上氏が「愛されすぎた白鳥」を読んだ後に描いたものです。あなたは、このような成立背景が、小説にどのような影響を及ぼしていると考えますか。

## 2) 高校古典領域

高校段階の古典領域の評価問題として、次のものを開発し、調査及び実際の授業を行った。

「絵仏師良秀」(宇治拾遺物語)

「花は盛りに」(徒然草)

このうち について、以下に評価問題を示す。

【室町時代の『徒然草』読者が称賛する兼好の美意識とは、一体どのようなものでしょうか。それは現代の我々の感覚とは異なるものなのでしょうか】

『徒然草』に言及する文章は、成立から百年以上経った室町時代以降のものしか残っていません。そこでは「花は盛りに」が、歌人・正徹によって次のように評されています(現代語訳で示します)。

兼好が「花は盛りに、月は隈なきをのみ見るものかは。」と書いたような心性を持った者は、世間には他にただ一人もいない。こういう心性は生まれつきのものである。(『正徹物語』)

正徹は、「花は盛りに、月は隈なきをのみ見るものかは。」を例に挙げ、こうした美意識を持った兼好の「心性」を称賛しています。しかし、この文章についての言及は以上であるため、正徹が兼好のどのような美意識「心性」を特に評価しているのか、具体的にはよく分かりません。そこで、

### 【問】

正徹の和歌の特徴について述べた文章

A、およびその正徹が理想とした藤原定家の和歌の特徴について述べた文章

Bを読み、その特徴を捉えましょう。

考えるための手引き

- 文章A・Bで述べられている特徴を、それぞれ「××ではなく」の形で整理してみましょう。

- 「××ではなく」の「」の部分をもとに「花は盛りに」との共通点を考えてみましょう。

で捉えたA・Bの特徴が「花は盛りに」の特にどの部分から読み取れるか考えましょう。

から室町時代の読者である正徹が兼好を評価した理由について考えましょう。

## 3) 中学校メディア領域

研究期間中に開発したメディア領域の評価問題は以下の4種類である。

インターネット記事の読解と、そこに掲載された写真についての理解を問う問題

写真を用いた物語創作と、その物語を公開していく方法についての理解を問う問題

新聞記事の比較読解と、ターゲット・オーディエンスおよびニュース・バリエーションの想定についての理解を問う問題  
海外の紹介文の比較読解と、写真表現についての総合的な理解を問う問題  
これらのうち、ここでは、【表2】に、の評価問題と評価の枠組みとの対応を示す。

評価の枠組み	番号	問いの内容
A オーディエンス	問1 (1)	この記事は旅行用ガイドブックの記事ですが、書き手はどのような願いを込めてこの記事を書いたと思いますか。
	問1 (2)	(1)の願いを実現するために、この記事ではどのような工夫がなされていると考えますか。
B 表象	問2 (1)	この記事の写真は、文章のイメージをどのように変える効果があると考えますか。写真に写っていることからの説明を含めて書きなさい。
C コンテキスト	問2 (2)	この記事は『素顔のカンボジア』という本に収められています。このタイトルはどのような意味だと考えますか。
D 情報公開の公正性	問3	A・Bの記事を踏まえ、カンボジアについてよく知らない人に向けてインターネット上のサイトで紹介するためには、どのような点に注意したらよいと考えますか。
E イデオロギー	問4 (1)	あなたはこれらの写真を見て、どのような印象を持ちましたか。
	問4 (2)	(1)のような印象を与えることは、カンボジアにとって良いことでしょうか、悪いことでしょうか。理由とともに書きなさい。

【表2】評価問題における問いと枠組み

この問題については、中学生に対して実態調査を行い、その結果について分析及び考察を行った。さらに、分析の結果をふまえ、中学生のメディア・リテラシー能力を評価するための汎用的な評価基準(次頁の表3)を試みとして作成した。

### (3) 高校古典授業の授業改善

古典領域について作成した評価問題は、高校もしくは大学において実際に授業を行った。ここでは、学校現場における実際の授業へ展開することができた高校古典「絵仏師良秀」について、授業の概要を示す。

#### 【実施校・日時】

徳島県立脇町高等学校2年生、2018年1月(各7時間)

#### 【授業の目的】

複数の文章を組み合わせることで課題を考え、自分の考えを表現すること

自分の知識や経験と結びつけて生徒が古典を理解すること

#### 【教材について】

『宇治拾遺物語』が伝えようとするのは、「事実としての不思議」を語るなかで、語

り手によって見いだされた「出来事の『意味』(話の「意味」/不思議の内側)」であった。そのため「読者の仕事」とは、(A)テキストの語りを通じて話の「意味」(「不思議の内側」)を読み取ること、(B)(A)の読解により話の「意味」(「不思議の内側」)を語り手と共有し、それに対して自分の考えを持つこと、と設定できる。

【単元展開】

授業ではまず(A)の活動として、《資料1》から「不思議の内側」に重点をおく『宇治拾遺物語』の特徴を捉えたのち、「絵仏師良秀」の語り手によって見いだされた「不思議の内側」について、テキストの語り(良秀像やテキストの構造など)や当時の仏教側の言説《資料2》をもとに考える。これは、授業の目的の「複数の文章を組み合わせる課題を考へる」に該当する。次に(B)の活動として、(A)で読み取った「不思議の内側」の具体例を挙げつつ、「絵仏師良秀」における「不思議の内側」を考へる文章を作成する。これは、授業の目的「自分の知識や経験と結びつけて古典を理解」(具体的には、『宇治拾遺物語』の語り手が見出す「不思議の内側」の具体例を考へることで、語り手ともの見方を共有)し、「自分の考えを表現する」活動である。

(4) 教員養成カリキュラムおよび現職教員研修への活用

(1)から(3)の研究成果は、大学における授業および現職教員研修において、活用した。特に後者については、2015年度から2017年度まで、毎年4回の研修とその後の公開授業研究を行った。公開授業は、次のようなものである。

2015年度

・河本先生(呉三津田高校)「平家物語：木曾義仲の最期」

2016年度

・頼岡先生(呉三津田高校)「垂直のファッション/水平のファッション」

2017年度

・川本先生(安古市高校)「『である』ことと『する』こと」(丸山真男)

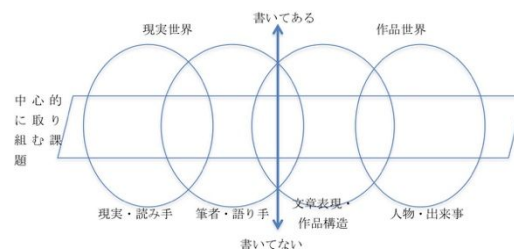
・馬石先生(呉三津田高校)「性善説」(孟子)「性悪説」(韓非子)

・今井先生(広島大学附属高校)「枕草子：ありがたきこと」(清少納言)

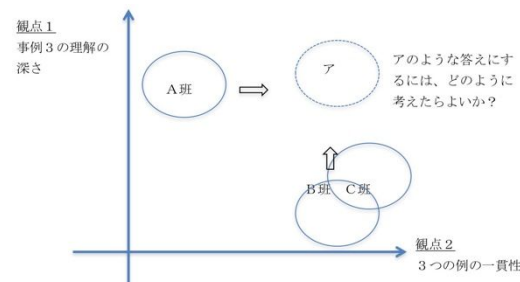
・土手先生(五日市高校)「自然に学ぶ」(養老孟司)

ここでは、高校の国語科授業改善セミナーにおいて提示し、実際の授業において活用した評価モデル(図2および図3)を示す。上記セミナーにおいて、これらの評価モデルを提示し、授業計画を立て、その中に評価計画を組み込んだ。さらに、実際の授業を公開授業として実施し、効果を検証した。授業において評価方法の改善が見られた。

【図2】板書活用の導入段階の評価モデル



【図3】板書活用の展開段階の評価モデル



5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計13件)

河野智文, 昭和二十年時代の作文評価に関する事例の検討, 福岡教育大学国語科研究集, 59, 2018, 39-48, 査読無し

武久康高, 古典教育における「比べ読み」学習の意義 『徒然草』137段(「花は盛り」に)の授業実践を例に, 高知大学教育実践研究, 32, 2018, 129-138, 査読無し

吉田茂樹・武久康高・渡邊春美・大坪顕彦, 小学校における「春はあけぼの(枕草子)」の授業改善 中学校との接続を視野に入れて, 高知大学教育学部研究報告, 78, 2018, 37-57, 査読無し

富安慎吾, 学習観の形成を支援する方法についての検討 漢字学習のためのパターンランゲージを用いて, 国語科教育, 81, 2017, 23-31, 査読有り

間瀬茂夫, 国語科における学習者の言語行為の質的把握と授業づくり, 月刊国語教育研究, 543, 2017, 28-31, 査読無し

間瀬茂夫・河野智文, 高等学校における小説の読みの学力評価のあり方 評価問題による検討, 国語教育研究, 58, 2017, 55-67, 査読無し

山元隆春, 作品と対話する授業の創造, 月刊国語教育研究, 544, 2017, 4-9, 査読無し

高旗浩志, 教室に「わからない」と言える支持的風土を 主体的・対話的で深い学びを実現するために, 教育時報, 813, 2017, 4-6, 査読無し

武久康高, 「物語の始まり」としての『竹取物語』 『竹取物語』の教材価値とその授業案, 高知大学教育学部研究紀要, 77, 2017, 33-44, 査読無し

中井悠加, 小学校国語科における児童詩教育の課題と展望: 歴史的変遷と教科書教

材の検討から ,人間と文化 ,1 ,2017 ,89-96 ,  
査読無し

山元隆春, 国語カリキュラムにとって文学  
はなぜ必要か 現代米国の文学教育論を手  
がかりとして , 広島大学大学院教育学研  
究紀要 第二部 (文化教育開発関連領域) ,  
65, 2016, 99-108, 査読無し

間瀬茂夫, 下学年の説明的文章教材を用い  
た授業の可能性, 学校教育, 1184, 2016,  
38-43, 査読無し

中井悠加, ワークショップ型詩創作指導に  
よる学びの形成: Arvon Foundation の取り  
組みの検討から, 学校教育実践学研究 ,22,  
2016, 65-78, 査読無し

[学会発表](計 13 件)

富安慎吾, 国語科における PCK についての  
研究: 教師の批判的思考に関する認識を中  
心に, 全国大学国語教育学会, 2017, 福山  
市立大学, 査読無し

Yuka Nakai ,Globalization and education:  
Comparative perspectives on connections  
and contradictions in language education ,  
UKLA 53rd International Conference, 2017,  
University of Strathclyde (Glasgow)

砂川誠司・富安慎吾・中井悠加, 国語科に  
おけるメディア・リテラシーの学力調査お  
よび評価問題の開発, 第 61 回日本読書学会  
大会, 2017, 林野会館

山元隆春, 「精読」の方法をどのように学  
ばせるか? - Notice & Note (2013) を手が  
かりとして, 第 133 回全国大学国語教育学  
会福山大会, 2017, 福山市立大学

富安慎吾, 教育実習生の省察を支援する方  
法についての検討 パターンランゲージを  
用いた事後指導を対象として , 全国大学  
国語教育学会, 2016, 白百合女子大学

間瀬茂夫, 実態的調査に基づいた国語教育  
研究の可能性, 全国大学国語教育学会 ,2016,  
白百合女子大学, 招待講演

小原友行・影山和也・草原和博・間瀬茂夫・  
三好美織, グローバル化に対応した教科教  
育カリキュラム・指導法の特質~シンガポ  
ールの I B 校の調査を通して~, 中国四国  
教育学会第 68 回研究大会, 2016, 鳴門教育  
大学

中井悠加, 現代イギリス GCSE 試験 English  
の内容と構造に関する一考察, 第 130 回全  
国大学国語教育学会, 2016, 新潟大学

Yuka Nakai, Yoichiro Nonaka , An  
exploratory study on picture-books in  
early childhood care and education  
environments (2): A classification of  
picture-books based on artistic features  
using reader-response theory , EECERA  
Conference 2016 , 2016 , Dublin City  
University (Dublin, Ireland)

間瀬茂夫・河野智文, 高等学校における小  
説の読みの学力評価 学力調査による分析  
(2) , 第 129 回全国大学国語教育学会  
西東京大会, 2015, 創価大学

山元隆春, ローゼンブラット「交流理論」  
の再検討 Making meaning with texts  
(2005)を中心に , 第 129 回全国大学国語  
教育学会, 2015, 創価大学

富安慎吾, 高校国語科における「高次読解  
力」の評価のあり方 漢文問題の場合 ,  
全国大学国語教育学会, 2015, 創価大学

富安慎吾, パターンランゲージを用いた国  
語科教科内容の記述に関する研究 文化の  
記述という観点から , 全国大学国語教育  
学会, 2015, 創価大学

[図書](計 4 件)

全国大学国語教育学会編 (山元隆春他) ,  
東洋館出版社, 国語科教育における理論と  
実践の統合, 2018, 82(5-8), 81-82)

間瀬茂夫, 溪水社, 説明的文章の読みの学  
力形成論, 2017, 355(1-355)

キャロル・アン・トムリンソン(山崎敬人・  
山元隆春・吉田新一郎訳), 北大路書房, よ  
うこそ、一人ひとりをいかに教室へ 「違  
い」を力に変える学び方・教え方 , 2017,  
244

山元隆春編著, 世界思想社, 読書教育を学  
ぶ人のために, 2015, 305

[その他]

ホームページ

<http://jlitera.hiroshima-u.ac.jp/>

国語学力フォーラム: 形成と評価

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

間瀬 茂夫 (MASE Shigeo)

広島大学・教育学研究科・教授

研究者番号: 90274274

### (2) 研究分担者

山元 隆春 (YAMAMOTO Takaharu)

広島大学・教育学研究科・教授

研究者番号: 90210533

河野 智文 (KAWANO Tomofumi)

福岡教育大学・教育学部・教授

研究者番号: 70304144

高旗 浩志 (TAKAHATA Hiroshi)

岡山大学・教師教育開発センター・准教授

研究者番号: 20284135

武久 康高 (TAKEHISA Yasutaka)

高知大学・教育研究部人文社会科学系教育

学部門・准教授

研究者番号: 70461308

富安 慎吾 (TOMIYASU Shingo)

島根大学・教育学部・准教授

研究者番号: 40534300

小谷 充 (KOTANI Mitsuru)

島根大学・教育学部・教授

研究者番号: 00283044

砂川 誠司 (SUNAGAWA Seiji)

愛知教育大学・教育学部・講師

研究者番号: 20647052

中井 悠加 (NAKAI Yuka)

広島大学・教育学研究科・助教

研究者番号: 40710736